

ウニ漁場造成に係わる事前評価手法の開発

水産土木工学部

研究の背景・目的

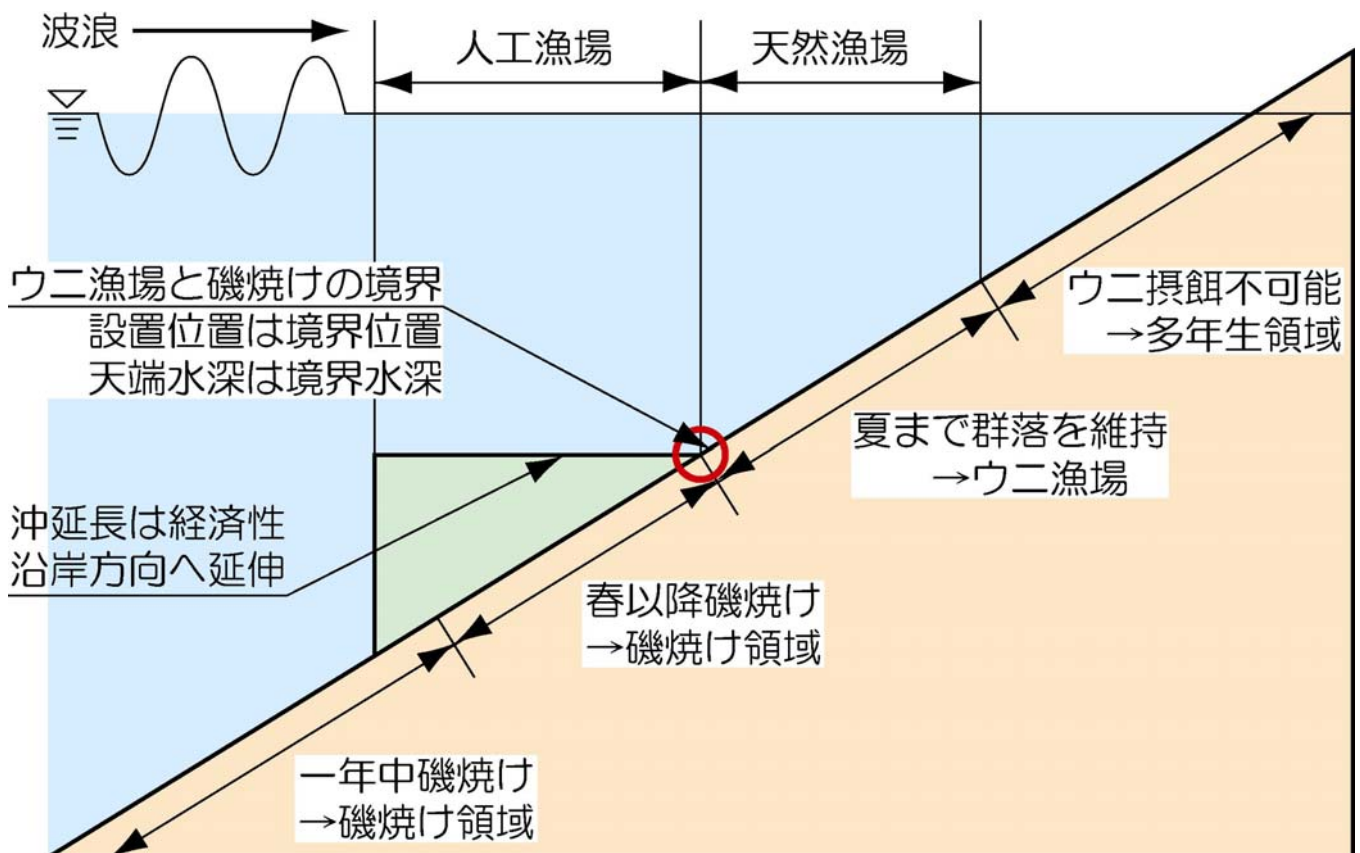
1. 造成後、数年で元の磯焼けに戻り問題となる場合が多い
2. 持続的に利用可能なウニ漁場造成のため事前評価が必要

研究成果

1. 嵩上げ(かさあげ)による流速増大で、ウニの摂餌量と海藻の生産量のバランスをとる
2. ①構造物の設置位置と天端水深の算定、②ウニ加入個体数の推定、③構造物の岸沖・沿岸延長の算定、による評価手法の開発

波及効果

1. 設計指針のバージョンアップ
2. 現地試験による本手法の検証(北海道寿都町地先で実施中)



(環境分析研究室・桑原久実)